

 **TOYO GOSEI**

## 第63期 中間報告書

(平成24年4月1日～平成24年9月30日)



 **東洋合成工業株式会社**

# Message to Our Stakeholders

株主の皆様へ

## ■ ご挨拶

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第63期中間報告書を作成するにあたり、ご挨拶申し上げます。

日本経済は、東日本大震災後の復興需要本格化やエコカー購入支援策による個人消費の増加が景気を下支えしております。しかしその一方で、依然として高水準で推移する失業率、円高の影響に加え、財政再建を目指した将来の消費税増税が足元の個人消費にも影を落としており、決して楽観視できない状況であると認識しております。

当社グループの感光材事業は、スマートフォンやタブレット端末など、より高精細な技術が要求される電子機器の需要拡大により好調な業績を維持し、エネルギー事業は、省エネルギー社会の中で蓄電デバイス向けの需要増加を受け、売上高を伸ばしております。また香料材料事業は、円高の影響を大きく受け、売上・利益の伸び悩みが見られました。グリーンケミカル事業は、売上に至るまでの評価期間が比較的長期にわたるため、需要増加にもかかわらず、売上・利益ともに昨年と同水準となりました。ロジスティック事業は、円高による液体化学品輸入の増加により期初低調であった取扱量が回復いたしました。

そのような外部環境の中、引き続き当社グループは既存顧客との関係強化のみならず新たな販路開拓にも努め、新製品の開発や既存製品のグローバルな拡販にも取り組んでおります。現在建設中の淡路工場では電子・電池材料向けの溶剤の潜在需要を開拓すべく、関西地方の顧客獲得に邁進しております。

当期の中間配当につきましては、円高の継続が見込まれ、リーマンショック後の世界経済をけん引してきた中国の成長鈍化などを総合的に勘案いたしました。通期の業績予想を変更せず、当初想定通り1株当たり3円とさせていただきます。当社グループとしましては、現在実施中の新規投資から収益向上を実現し、株主の皆様へ還元できるよう全社一同全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ■ 当第2四半期（累計）の連結経営成績

（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

当第2四半期（累計）は、引き続き既存顧客との関係強化に加え新たな販路の開拓にも努め、また、新製品の開発や既存製品の拡販にも取り組みましたが、円高に加え、景気足踏みの影響等を受け、売上高は6,849百万円（前年同期比△311百万円、△4.3%）となりました。

損益面では、全社的な経費削減や原価低減活動等のコスト対策を継続したものの、営業損失は△34百万円（前年同期比△405百万円）、経常損失は△174百万円（前年同期比△446百万円）、四半期純損失は△207百万円（前年同期比△462百万円）となりました。

## ■ 通期連結業績見通し

（単位：百万円）	通期の見通し
売上高	15,000
営業利益	120
経常利益	20
当期純利益	0

経済情勢につきましては、上述しました通り、海外・国外とも先行き不透明感が残っており、今後も予断を許さない情勢が続くものと予想されます。

このような見通しの下、当社グループは厳しい経営環境においても収益を生み出す事業体質の定着化を目指し、下記の施策に重点を置いて事業に取り組んでまいります。

- ①顧客に常に役立つ製品を顧客と共に開発する。
- ②R&Dを強化し、高付加価値化／差別化を実現する。
- ③内外の問題解決に正面から取り組み先送りしない実直な経営を行う。

当社グループの更なる成長に向け、研究開発のスピードアップおよび収益体質の強化を促進し、全社一丸となりグローバル競争に何としても勝ち抜く強固な事業基盤を構築してまいります。

今後も株主の皆様のご期待に応えるべく一層の業績向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月



代表取締役社長

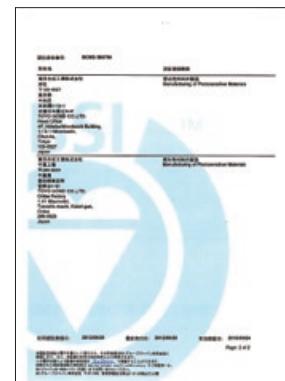
木村有仁

## 大規模投資計画と事業リスク対策

### ▶ 事業継続マネジメント規格BS25999認証を取得

当社は、感光性材料の製造事業におきまして、事業継続マネジメント規格である「BS25999-2:2007」の認証を取得いたしました。

適切なマネジメントシステムを導入し実践する事により、さまざまなリスク事由に対してもお客様へのサービスを低下させる事なく企業価値が向上するよう努めてまいります。



### ▶ 淡路工場建設計画について（グリーンケミカル事業部）

**目的** 工場立地リスクの分散と電子・電池材料市場での需要の取り込み、および急速な成長が見込まれる関西市場での戦略的な生産拠点として位置付け、更なる事業の発展を目指します。現在、来春の竣工に向けた手続きを進めております。

**敷地面積** 約50,500平方メートル

**所在地** 兵庫県淡路市生穂新島



### ▶ 電力需要対策

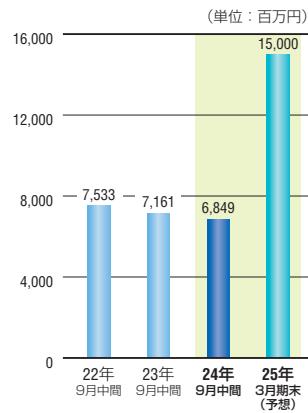
**目的** 長期化が見込まれる電力供給不安への対策として、千葉工場および市川工場内に自家発電機を設置いたしました。今後もお客様への安定供給に努めてまいります。



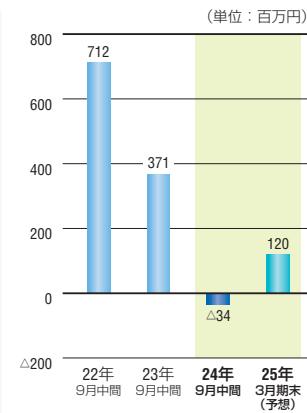
# Financial Highlight

財務ハイライト

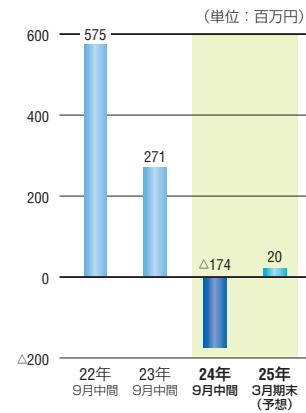
売上高



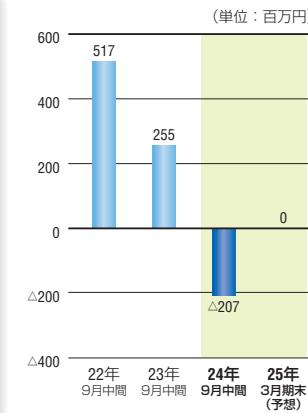
営業利益



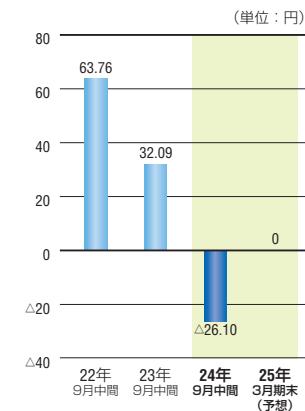
経常利益



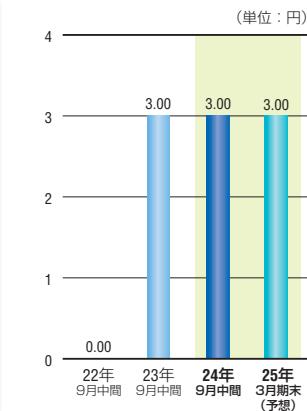
四半期(当期)純利益



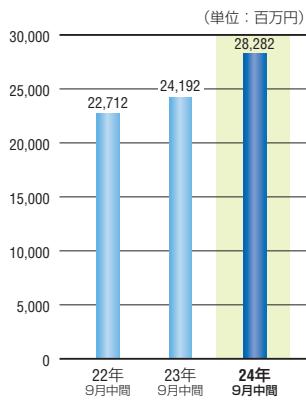
1株当たり四半期(当期)純利益



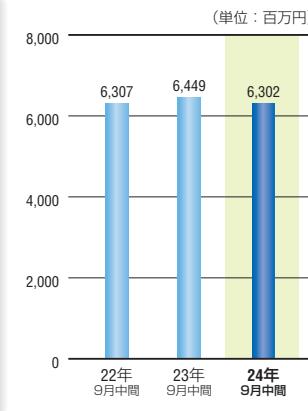
1株当たり配当金



総資産



純資産



※当社は、株式会社トランスパレント社を今後の有力な成長分野と見込み、平成22年3月期より、同社を当社連結対象といたしました。

# Results of Operations

経営成績

## 貸借対照表ハイライト（連結）

(単位：千円／千円未満切捨表示)

	前第2四半期末 平成23年9月30日	当第2四半期末 平成24年9月30日
流動資産	8,583,427	9,123,995
固定資産	15,609,339	19,158,965
資産合計	24,192,767	28,282,960
流動負債	11,370,428	12,998,361
固定負債	6,372,745	8,982,392
負債合計	17,743,173	21,980,753
純資産	6,449,593	6,302,206
総資産	24,192,767	28,282,960

## 収益性指標ハイライト（四半期連結累計期間）

(単位：千円／千円未満切捨表示)

	前第2四半期 連結累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
売上高	7,161,200	6,849,879
営業利益又は営業損失(△)	371,013	△34,602
経常利益又は経常損失(△)	271,561	△174,835
四半期純利益又は四半期純損失(△)	255,177	△207,560
フリーキャッシュ・フロー	△367,969	△1,281,089

## 事業部実績

【感光性材料事業】売上高：3,588百万円（前年同期比+48百万円、+1.3%）

半導体用途向け感光性材料は、スマートフォンやタブレット端末などを始めとしたより高精細な技術が要求される電子機器の需要拡大に対応することで、好調に推移いたしました。液晶用途向け感光性材料は、液晶テレビの需要減速に伴うパネルメーカーの稼働率低下を受け、低調に推移いたしました。電解液・イオン液体は、引き続き精力的な需要開拓を進め、省エネルギー社会志向のなか、蓄電池バイスを中心に売上高を伸ばしております。

【化成品事業】売上高：3,260百万円（前年同期比△359百万円、△9.9%）

香料材料事業は、新興国を中心に需要は底堅いものの、円高の影響や価格競争により、売上高・利益とも伸び悩みました。また、グリーンケミカル事業は、高付加価値品と溶剤リサイクルを中心に市場開拓を進め、主に電子材料用途の需要取込みに注力しておりますが、成約に時間を要する高品質材料に需要がシフトしていることから、業績を大きく改善するには至らず、売上高・利益ともに横ばいとなりました。ロジスティック部門は引き続き顧客満足度の維持・向上に努めた結果、タンク契約率は高水準を維持するとともに、期初低調であった荷動き量も回復の動きを見せ、売上高・利益とも横ばいを確保いたしました。



### 感光材事業 スマートフォン、携帯電話や液晶テレビに使われる半導体の製造を支えています

感光材は、液晶テレビや半導体の製造工程で使用される微細構造を形成する材料であるフォトレジストの原材料になります（フォトレジストとは、感光材と溶剤等から作られます）。当社の感光材は高性能かつ高品質の製品として高い評価を頂いており、世界トップクラスのメーカーとして高いシェアを有しております。また、次世代型感光材の研究開発にも積極的に取り組んでおります。  
所在地：千葉工場（千葉県香取郡東庄町）



### エネルギー事業 燃費の向上やCO<sub>2</sub>削減に寄与する未来の液体

近年の省エネルギー化の推進を背景に、建機、港湾クレーン、風力発電機の補助電源として電気二重層キャパシタの搭載が進んでおります。当社では、この電気二重層キャパシタ用の電解液及びイオン液体の製造販売を行っております。イオン液体の使用は多くの分野で研究されており、環境負荷の少ないグリーンケミストリー用反応溶媒や安全で高性能な次世代電解質としての活用が望まれています。また、フォトレジスト用現像液TMAHの製造販売も行っております。  
所在地：千葉工場（千葉県香取郡東庄町）



### 香料材料事業 世界に広がる香りの素をつくる

食品（フレーバー）や化粧品（フレグランス）製品の単品香料を作っているのが、香料材料事業部です。食品や化粧品の香りは、何十種類もの単品香料を香料会社で調合し、1つの香りが作られています。当社ではその香りの素となる単品香料を世界各国の大手香料会社に販売しております。当社の単品香料は、香料として一番重要な“匂い”の安定性を特徴としており、国内外へ幅広く販売しております。  
所在地：香料工場（千葉県香取郡東庄町）  
市川工場（千葉県市川市上妙堂）



### グリーンケミカル事業 地球温暖化、大気・水質汚染問題解決に貢献

有機溶剤は、電子・電気部品、自動車、製薬等の広範囲な分野で使用されており、使用後の廃溶剤の多くは再利用されることなく、大気への放出または燃焼処理が行われていました。当社では、お客様から使用済み廃溶剤を引き取り、蒸留・精製を行うことで新品同様に蘇らせております。当社は、特に高度な蒸留・精製技術が求められる半導体などの電子部品材料用溶剤のリサイクルで高い実績を誇っております。  
所在地：市川工場（千葉県市川市上妙堂）



### ロジスティック事業 月間200隻の船舶と3,000台のローリーに対応

高浜油槽所において、大手石油化学メーカーや商社の液体化学品を船舶で受け入れ、一時保管し、タンクローリーで関東各地のお客様へ配送を行っております。受け入れ船舶は月間200隻、ローリーでは3,000台の出荷に対応できます。また、化学品メーカーとして長年培ってきた化学品の取り扱い、管理、分析の技術と最新の設備により、安全かつ環境にも配慮した万全の物流体制を整えております。  
所在地：高浜油槽所（千葉県市川市高浜町）



### 新規事業開発 ナノテク分野、バイオ分野の研究開発

ナノテク分野では、UVナノインプリント専用の樹脂を世界で初めて発売しました。ナノインプリントは、他の微細加工技術では困難な大面積加工が可能なため、次世代型加工技術として注目されています。

バイオ分野では、㈱トランスバレントが「Cell-able™ Oncology」の販売を開始いたしました。

抗がん薬の研究開発や、一人一人に最適な治療方法を選択する等、個別医療の場面での適用が期待されています。

所在地：感光材研究所（千葉県印西市若萩）

# Stock Information

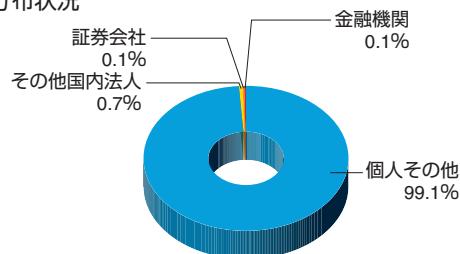
株式の状況 (平成24年9月30日現在)

■ 発行可能株式総数	30,000,000株
■ 発行済株式総数	8,143,390株
■ 株主数	9,145名
■ 大株主	

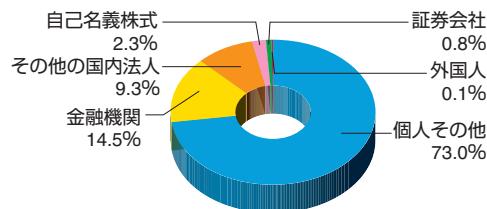
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村正輝	1,437	18.07
木村有仁	394	4.96
木村愛理	383	4.81
(株)千葉銀行	298	3.74
(株)東京都民銀行	298	3.74
あいおいニッセイ同和損害保険株	248	3.12
(学)早稲田大学	200	2.51
(株)TGホールディング	200	2.51
東洋合成工業社員持株会	199	2.51
片岡文子	163	2.05

(注) 当社は、自己株式を190千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
また、持株比率は自己株式(190千株)を控除して計算しております。

## ■ 株主の分布状況



## ■ 株式の分布状況



# Homepage Information

ホームページのご紹介



トップページ

IR情報



当社は、事業運営状況や投資家向けの情報公開をするにあたり、Webを主要な手段の1つだと考えております。当社Webサイトでは、最新情報を随時更新しておりますので、是非ご覧ください。



当社は、企業活動による地域環境負荷の低減に努め、企業活動を通じて地球環境の改善に貢献できるよう取り組んでおります。環境レポートには、当社の環境及び安全への取り組みを掲載しておりますので、是非ご覧ください。

※環境レポートは当社ホームページに掲載しております。

<http://www.toyogosei.co.jp/>

# Corporate Profile

## 会社の概要 (平成24年9月30日現在)

- 商号 東洋合成工業株式会社
- 本店所在地 千葉県市川市上妙典1603番地
- 本社 東京都中央区日本橋一丁目13番1号  
日鐵日本橋ビル4F
- 設立 昭和29年9月27日
- 資本金 1,618,888,703円
- 従業員数 449名
- 事業内容
  1. 有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売
  2. 画像形成用の感光性材料等の製造並びに販売
  3. 電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売
  4. 電池材料並びに電気二重層材料等の研究開発、製造並びに販売
  5. 酵素蛋白、細胞を特定形状化するための感光性樹脂の研究開発、応用品の製造並びに販売
  6. 化学機械・装置（反応用機器、蒸留塔、抽出器、濾過器、乾燥機等）の設計、製作並びに設置工事
  7. 前各号に掲げる物品の輸出および輸入
  8. 倉庫業
  9. 貨物運送取扱業
  10. 前各号に付帯関連する一切の事業
- 事業所
  - 千葉工場 千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号
  - 香料工場 千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号
  - 市川工場 千葉県市川市上妙典1603番地
  - 高浜油槽所 千葉県市川市高浜町7番地
  - 感光材研究所 千葉県印西市若萩四丁目2番1号
  - 西日本営業所 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目1番45号
- 関係会社 株式会社トランスパレント  
TG Finetech Inc.

- 役員
- 代表取締役会長 木村 正輝
- 代表取締役社長 木村 仁夫
- 専務取締役 木川 繁
- 取締役 川村 宏
- 渡辺 一彰
- 出来 優
- 島川 一順
- 金子 衛
- 伊藤 正一
- 藤原 誠
- 萩崎 達三
- 宮本
- 間
- 監査役

## 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月下旬
- 剰余金の配当の基準日 3月31日  
中間配当を実施するときは9月30日
- 定時株主総会基準日 毎年3月31日  
※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
- 単元株式数 100株
- 公告方法 電子公告により行います。  
公告掲載URL <http://www.toyogosei.co.jp/ir/epn.html>  
ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- 株式の諸手続き 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。  
特別口座をご利用の株主様は、みずほ信託銀行株式会社0120-288-324（フリーダイヤル）までお問い合わせください。

## 東洋合成工業株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目13番1号 日鐵日本橋ビル4F  
TEL03-3548-4970 FAX03-3548-4961  
E-mail : [ir@toyogosei.co.jp](mailto:ir@toyogosei.co.jp)

